

資料1

京都市考古資料館 文化財講座第311回

2020年1月25日

連続講座「**光秀と京**」第1回

『特別展示「**光秀と京～入京から本能寺の変～**」』

京都市考古資料館 高橋 潔

はじめに

京都市考古資料館では、2月7日（金）より令和元年度後期特別展示として、「光秀と京～入京から本能寺の変～」を開催します。1月19日よりNHK大河ドラマ「麒麟がくる」が始まり、今年は明智光秀に関する展覧会やイベントが各地で催されるようです。そこで、当館も特別展示を京都市歴史資料館と共同開催いたします。歴史資料館とは同じタイトルで、共通のチラシを作成、2館間のスタンプラリーを実施します。

また、関連事業として、『光秀と京』をテーマに連続講座として6回の文化財講座を実施、さらに今回の展示を10倍楽しむためのミニ講演会を5回予定しています。

文化財講座（会場：京都アスニー）14：00～16：00

- ② 2月29日（土） 井上幸治（京都市歴史資料館）
「古文書と日記に見る、明智光秀」
- ③ 3月21日（土） 馬瀬智光（京都市文化財保護課）
「明智光秀と京の城一周山城跡を中心に」
- ④ 4月25日（土） 柏田有香（京都市埋蔵文化財研究所）
「信長の京都御座所―二条殿御池城を中心に―」
- ⑤ 5月30日（土） 河内将芳（奈良大学）
「織田信長と京都」
- ⑥ 6月27日（土） 山本雅和（京都市埋蔵文化財研究所）
「明智光秀と『本能寺の変』」

10倍！！楽しむためのミニ講演会 14：00～15：00

（会場：②は新島会館、以外は京都市考古資料館3階旧貴賓室）

- ① 2月22日（土） 高橋 潔（京都市考古資料館）
「遺跡からみた信長入京前の京都」
- ② 3月14日（土） 野地秀俊（京都市歴史資料館）
「島津家久が出会った明智光秀一家久の上京日記をよむ」
- ③ 4月18日（土） 井上 優（滋賀県教育委員会文化財保護課）
「光秀近江多賀出身説を追う！」
- ④ 5月16日（土） 清水早織（京都市文化財保護課）
「発掘調査から見る本能寺の変」
- ⑤ 6月13日（土） 鈴木久史（京都市文化財保護課）
「動乱期の瓦―天文法華の乱から本能寺の変まで―」

戦国期の終盤、足利義昭の求めに応じて、美濃・尾張を支配していた織田信長は入京を果たします。紆余曲折があり、その周旋には足利家家臣であった明智光秀が尽力したとされ、ともに入京したとされます。入京後の光秀は武士としても文官としても才能を発揮し、厚い信頼を受けて信長の配下へ移るものの、日本史史上最大の謎とされる本能寺の変において主君・信長を倒し、永らく反逆者として扱われてきました。

近年、研究が蓄積され、その長年のイメージが一面的で必ずしも正しくないことが指摘されるようになり、今回の大河ドラマ「麒麟がくる」ではどのように描かれるのか、興味深いところです。

今回の特別展示では、光秀が活躍したころの京都のようすを、発掘調査によって明らかとなった遺跡について写真や図表のパネルを掲示し、出土遺物を展示して紹介します。本日は現在絶賛準備中の、その概要をお話します。

1 戦国期後半の京都

信長が入京する以前の京都は、「応仁・文明の乱」の収束後も、戦乱が続きました。大名・武家同士の争いだけでなく、宗教戦争も加わっていきました。

天文元年（1532）8月 **山科本願寺の戦い** 六角氏と法華一揆により焼討ち

天文5年（1536）7月 **天文法華の乱** 宗教問答に敗れた比叡山僧兵の援護に六角定頼が出兵、日蓮宗二十一本山はすべて焼き払われ、洛外へ追放されました。

これらの戦乱により、京の町はたびたび戦火に見舞われます。このため、上京や下京の町では戦乱に備え、自衛のための堀と土塁からなる惣構が各所に造られました。

永禄8年（1565）5月 **永禄の変** 13代足利将軍・義輝 三好三人衆らに攻められ自害。覚慶（義輝の弟、後の義昭）は奈良・興福寺に幽閉されましたが、脱出し還俗し、各地の有力大名に御内書を発給、入京を目指しました。

2 信長、足利義昭を奉じて入京

織田信長は、美濃国の斎藤氏を排除し、足利義昭を奉じて、永禄11年（1568）9月入京を果たします。義昭は15代将軍となり、信長は義昭の御座所として武家御城（旧二条城）を造営するなど、当初は両者の関係は円滑ですが、将軍としての権威を保ちたい義昭と実際の行政的な対応を担った信長との間の確執は徐々に深まります。元亀4年（1573）7月に義昭は武家御城を出奔、宇治・槇島城に籠りますが、すぐに攻囲され降参します。信長に京都を放逐された義昭は各地を転々としませんが、最終的に安芸・毛利氏の許へ身を寄せ、幕府の再興を目指し各地の大名に支持を求め続けました。

明智光秀は、義昭の家臣として、信長の入京に従いました。当初は義昭配下として信長との取り次ぎ役を務めつつ、元亀元年（1570）の越前朝倉攻めやその後の朝倉・浅井方との攻防、そして比叡山の焼討ちにも参戦、徐々に信長の武将として重用されるようになり、元亀2年（1571）には近江志賀郡の統治を任せられ、宇佐山城に入ります。

織田方は天正元年（1573）8月一乗谷に朝倉義景、9月に小谷城に浅井長政、11月河内・若江城に三好義継を攻め、それぞれ自刃に追い込むなど、着々と支配域を拡げました。

3 光秀の丹波攻略

義昭が京都を放逐された後、京都所司代に任じられた村井貞勝の京都に関する行政の補佐を行う光秀に、天正3年（1575）6月、丹波攻略が命ぜられました。光秀は丹後へ入り、順調に平定を進めたようですが、翌年1月黒井城に赤井氏を攻めた際に、八上城の波多野秀治に裏切られ敗走します。この年、光秀は5月病に倒れ、7月まで療養、11月には正室・熙子が死去します。

丹波攻略は天正5年（1577）10月に再開、丹波攻略の拠点として同6年亀山城を築城し同7年6月八上城、7月宇津城、8月黒井城・横山城などを攻め落とし、2年間かけて平定を成し遂げました。この功により、天正7年（1579）10月信長より、丹後・丹波両国の知行が認められました。

この間も天正3年8月に越前一向一揆平定、同4年4～7月に石山本願寺との戦い、同5年10月に大和・信貴山城に松永久秀討伐、同6年5月に秀吉の播磨攻め、10～12月は摂津有岡城・三田城攻めなどにも参陣しています。

天正8年、細川藤孝は、信長から丹後の支配を任されて、長岡・勝竜寺城を返上し、宮津・八幡山城に入ります。

4 そして、、、本能寺の変

天正8年（1580）8月、長年にわたり、信長と対立してきた石山本願寺が朝廷の仲介によって大坂を退去、紀州・雑賀へ移ることとなり、畿内周辺はほぼ平定されました。信長はこれを誇示するために、大々的な馬揃えを計画、その準備を光秀に命じました。

内裏の東に南北4町、東西1町の馬場を整備し、天正9年（1581）2月28日、正親町天皇の天覧の下、大規模な京都御馬揃えが挙行されます。朝廷の要望に応じて3月5日にも再度馬揃えが実施されています。この段取りに奔走した光秀に対する信長の評価は高かったとされています。

この年、光秀は6月に18条からなる「家中軍法」、12月に5条からなる「家中法度」を制定します。このような法令は織田家中でも他に例はなく、光秀の施政方針を表すものとして注目されています。

いよいよ、天正10年（1582）は運命の年です。2月甲斐・武田氏攻めに光秀も参陣、武田氏は滅亡します。5月には戦勝祝いの饗応役を光秀が命じられ、安土城における徳川家康の接待が行われました。その後すぐに備中・高松城に毛利氏を攻めている秀吉が信長の出陣を促し、それに先立って光秀らにも備中への出陣が命じられました。信長の天下統一の総仕上げといったところでしょうか？

光秀は、近江・坂本城から丹波・亀山城へ移動し、愛宕神社へ参詣、一宿参籠し連歌会を催し、亀山城へ戻り、6月1日の夕刻出陣します。

西暦	年号	月	主な出来事
1532	天文元	8月	山科本願寺の戦い 六角氏と法華宗により焼討ち
1536	天文5	7月	天文法華の乱
1565	永禄8	5月	永禄の変。 覚慶（義輝の弟、後の義昭）、興福寺に幽閉。
		7月	覚慶脱出→伊賀国→甲賀郡和田城（和田惟政）→野洲郡矢島「矢島御所」
1566	永禄9	2月	矢島御所にて、覚慶還俗、足利義秋と名乗る。
		8月	織田信長上洛の兵を起こすが、斎藤龍興の襲撃にあい尾張国へ撤退
		9月	義秋、若狹を経て越前国・朝倉義景の下へ
1567	永禄10	8月	織田信長、斎藤氏を追い、美濃稲葉山城（岐阜市）に入る。「岐阜」と名付け拠点とした。
1568	永禄11	2月	義栄、將軍宣下、14代將軍
		4月	義秋、越前一乗谷にて元服し、義昭と改名
		7月頃	信長、越前にいた義昭らを岐阜に招聘（光秀仲介）
		9月	織田信長、足利義昭を奉じて上洛
		10月	大和攻め（細川藤孝、和田惟政）、光秀同道か
			義昭、將軍宣下、15代將軍
1569	永禄12	1月	本國寺の戦い
		1月	信長、義昭へ「殿中御掟」9カ条、2日後7カ条追加
		2月	京都における將軍の御座所「武家御城」を造営。
1570	永禄13	1月	義昭と信長、再び条書5カ条交わす
			信長、「禁中御修理、武家御用」と畿内・近国の大名に参洛を求める
	元亀元	4月	越前朝倉攻め 浅井長政、信長に反旗→信長方敗走
		6月	姉川合戦
		9～11月	朝倉・浅井方、三好三人衆・大坂本願寺と連携し、上洛し、信長方と対峙
1571	元亀2	1月	信長、信頼しうる家臣たちを近江南部の城へ配置はじめる
			光秀、近江志賀郡の統治を任じられ、宇佐山城へ入る
		9月	信長、比叡山焼き討ち
1572	元亀3	閏正月	光秀、坂本城の普請を進める
		9月	信長、義昭に対し、「意見17ヶ条」を提出
1573	元亀4	3月	義昭、信長と断交
		4月	上京焼き払い
		4月	義昭、信長の和睦成立
		7月	義昭、武家御城から退城し、槇島城へ入り、挙兵するも破れ、室町幕府滅亡
1574	天正2	9月	長島一向一揆 平定
1575	天正3	5月	薩摩・島津家久、伊勢参詣を兼ねて上洛、光秀の招きにより坂本へ
			長篠の戦
		6月	光秀、丹波攻略を信長に命ぜられ、丹波へ入国
		7月	賜姓と受領任官をうけ「惟任日向守」と称する
		8月	越前国にて一向一揆
		10月	大坂本願寺・顕如、信長と和睦
1576	天正4	1月	光秀、配下の波多野秀治に裏切られ、第一次丹波攻略 失敗
		2月	光秀、再び丹後入り
		4月	信長、大坂本願寺と再び対立
		5～7月	光秀、病いに罹り療養
		11月	光秀の妻、熙子病没
1577	天正5	10月	大和・松永久秀討伐（藤孝、明智衆の一軍として動員）
			光秀、丹波攻略再開（第二次丹波攻略 ～天正7年10月）
1578	天正6	1月	安土城築造開始
		5月	光秀、播磨攻めに参加
		8月	藤孝嫡男忠興、信長の媒酌により光秀の娘玉（のちのガラシャ）と婚姻
		10月	摂津国有岡城の荒木村重が大坂本願寺と手を結び、信長に反旗
			光秀、高槻城の高山右近、茨木城の中川清秀を投降させる
		12月	織田方、有岡城の周囲の集落に「御取出」を配置。
			光秀、佐久間信盛、筒井順慶らと荒木氏が籠る三田城を攻囲する。羽柴秀吉の助勢
1579	天正7	6月	光秀、八上城を落城、波多野氏滅亡
		7月	光秀・藤孝、丹後へ攻め入る。宇津城を攻略、宇津氏を追い落とす
		10月	光秀、丹後・丹波両国一篇の知行を認められる
		年末	信長、藤孝・忠興に丹後国を移管、勝龍寺城は返上。八幡山城（宮津市）に入る
1580	天正8	8月	本願寺、大坂退去、紀州雑賀へ移転
			信長、佐久間信盛に対し「御折檻」の条を以て譴責、高野山へ追放。
1581	天正9	正月	信長、京都馬揃えの準備を光秀に命じる
		2月	信長、馬揃えを実施。光秀は三番手として上山城・大和衆を率いて行進
		3月	信長、藤孝に丹後一国検地を命じる。あわせて軍役指示
		6月	光秀、家中軍法を制定
		12月	光秀、定家中法度を制定
1582	天正10	2月	信長、甲信攻め。順慶が光秀の「一手ノ衆」として出陣
		5月	信長、徳川家康・穴山信君（梅雪）を安土城で饗応。光秀が饗応役を命じられる。
			光秀、備中高松城を攻める羽柴秀吉の援軍を命じられる
			光秀、坂本城を出て、丹波亀山の「居城」へ
			光秀、愛宕山へ、一宿参籠。愛宕山西坊にて連歌会
		6月	本能寺の変
			山崎合戦

山科本願寺跡



御本寺南西部の土塁断面(南東から)



御本寺南西部礎石建物と炉床跡(北から)



御本寺の宗主空間で見つかった石風呂跡(北から)



御本寺南西部礎石建物と埋甕(北から)

本國寺跡



北部 並行して走る南北方向の堀を検出(北から)



北部 寺域東限の濠(北から)

上京惣構跡



惣構内 屈曲する堀と柱列(北から)



惣構内 屈曲する堀の東面の石垣(北から)



惣構内北部 屋敷内の区画の堀(西から)

武衛陣跡



東西方向の濠(西から)



東西方向の濠(西から)

下京惣構跡



南東部 惣構の濠(北西から)



北西部 惣構の濠(東から)



惣構内の濠(北から)



惣構内 錦小路通の南濠(東から)



六角堂東側の旧境内 南北方向の区画堀(西から)

武家御城（旧二条城）跡



内郭南辺の濠の北石垣（南から）



内郭南辺の濠の北石垣（南から）



内郭北辺の濠の南石垣（北西から）



内郭南辺の濠内に散乱する石材（南から）



外郭北辺の濠を埋めた陸橋部と暗渠（北から）

本能寺城跡



東部中央で見つかった石垣（東から）



石垣前面北側の壁断面（南から）

南東角部 南限となる四条坊門小路の北側溝（南から）



中央部 礎石建物一部とみられる礎石据え付け跡（西から）



妙覚寺城・二条殿御池城跡



二条殿龍躍池の東岸部（西から）



南端で見つかった石風呂の2連式竈（西から）



西辺南部
北東から南西方向の濠（北から）



中央東寄り礫敷きの通路と伴う柵列（東から）



載輪宝鬼瓦



「能」寺銘軒丸瓦



焼け瓦



焼けた壁土